

浜の活力再生プラン  
(第 2 期)

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	射水市地域水産業再生委員会
代表者名	会長 尾山春枝 (新湊漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の構成員	新湊漁業協同組合、堀岡養殖漁業協同組合、庄川沿岸漁業協同組合連合会、大門漁業協同組合、近畿大学水産研究所富山試験場、新湊水産物商業連合協同組合、富山県漁業協同組合連合会、富山県農林水産部水産漁港課、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、射水市産業経済部
オブザーバー	

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p>新湊漁業協同組合管内 定置網漁業 78 名、小型底曳網漁業 67 名、かごなわ漁業 19 名、刺網漁業 14 名、延縄漁業 6 名 合計 184 名</p> <p>庄川沿岸漁業協同組合連合会 構成 7 単協 510 名 うち射水市内の庄川沿岸内水面漁業 77 名 大門漁業協同組合 71 名 庄川沿岸漁業協同組合連合会事務局 6 名 アユ、サクラマス漁業 74 名 サケ、雑魚漁業 13 名 (一部重複)</p>
-------------------	---

## 2 地域の現状

### (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

#### ◎新湊漁業協同組合管区

富山県のほぼ中央に位置する射水市は、富山湾に面した海岸線の延長が約8キロメートルあり、その西部に第3種漁港である新湊漁港は位置している。

射水市の西端から庄川、小矢部川の二大河川が富山湾に流れ込んでおり、その地形は海岸線から急に深くなる多くの海底谷<sup>あいがめ</sup>が発達し、表層の日本海を北上する対馬暖流と冷たい日本海の固有水（深層水）が層をなしている。そこへ、立山連峰に源を発する河川の水や地下水が多く栄養を供給することによって暖流系と冷水系の魚貝類が生息し、四季を通じて多彩な魚介類が漁獲される好漁場となり、定置網、底曳網、かごなわ、刺網漁業など、日本海で行われているほとんどの漁業が営まれている。春はホタルイカ、白エビ、夏にはコヅクラ、アジ、秋にはズワイガニ・ベニズワイガニ、カマス、フクラギなど、冬にはブリ、スルメイカ、タラ類、ホッコクアカエビ、その他年間を通して漁獲されるバイ貝など、季節によって様々な魚介類が市場を賑わせている。

しかしながら、魚の回遊状況の変化や海水温の上昇などの漁場環境の変化等により、新湊漁業協同組合（以下、「新湊漁協」という。）の平成21年から平成30年の平均漁獲量は5,101トンであったが、令和元年の漁獲量は3,325トンまで減少している。また、ブランド魚の育成など魚価向上に取り組んでいるが、漁獲高も減少（平成21年から平成30年の平均漁獲高1,989百万円、令和元年の漁獲高1,747百万円）している状況であり、漁獲量の維持及び更なる魚価の向上を図ることが緊急の課題となっている。

さらに、漁業従事者の減少（漁業従事者数：平成25年225人、平成30年184人）及び高齢化（高齢化率（65歳以上の割合）：平成25年30%、平成30年50%）などの問題を抱えており、これらへの対応も併せて重要な課題となっている。

#### ◎庄川沿岸漁業協同組合連合会 射水市内

庄川沿岸漁業協同組合連合会（以下「庄川漁連」）は県内におけるサケ種苗生産の重要拠点として、種苗放流や放流効果調査事業等を実施し、サケ資源の増殖に長年取り組んでいる。

しかし、サケ種苗生産施設は建設から87年が経過しており、水槽のひび割れなど、施設の劣化が著しく、また親魚捕獲用の築についても老朽化している。

加えて、庄川におけるサケの捕獲数は、平成27年度は53,813尾であったが、令和元年度には5,423尾と大きく減少しており、庄川におけるサケ資源の減少が大きな問題となっている。

サケは川で生まれた後、海に下り、長い旅を経て母川に回帰し産卵する。したがって、庄川のサケ資源を守り続けるためには、放流したサケが少しでも母川回帰できるよう、現状のサケ増殖施設を整備し、健康な稚魚を適切なタイミングで放流できる体制を整えることが重要である。

(2) その他の関連する現状等

平成 27 年の北陸新幹線の開通に伴う P R 効果で、シロエビやホタルイカ等の魚価が一時的に大きく向上した。その後、ホタルイカの単価は開通前より高い水準を維持しているが、シロエビの魚価は開通前より低くなった。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

## (2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

漁業者の経営の安定を図るためには適正な魚価の形成や、適切な水産資源の管理、生産性や所得の向上、並びに漁業コストの削減が重要な課題となる。

これらに係る取組みとしては、前期浜プランでの取組みを承継するとともに、漁業者が漁労作業だけでなく広く加工・流通・販売に携わることで、高鮮度が保持された安全で良質な水産物を供給することで付加価値を高め、魚価向上を図る。また、スマート漁業を導入し、漁業者相互が情報共有することで、漁労作業の省力化や燃油消費量の削減等漁業コストの削減を図る。

### 1 漁業収入向上のための取組

#### (1) 魚価向上に向けての取組

##### ① シロエビのエコラベルの取得による販路拡大

シロエビ単価の向上のためには、①付加価値を向上する、②新しい販路を開拓することでセリを活性化させる、といった取組みが必要と考えられる。

現在、東京オリンピックの開催に向けて、全国的に水産エコラベル認証への注目が高まっており、環境に配慮した漁業活動を PR していくことで、販路の拡大による魚価の向上が大きく期待される。

そこで、富山湾特有の水産物であるシロエビ漁業について、水産エコラベルの認証を取得し、シロエビが環境に優しい漁法で漁獲されていることを県内外に広く PR することで、販路拡大による単価向上を目指し、漁業者の所得向上に繋げる。

##### ② シャーベット氷の活用による鮮度管理

ホタルイカやベニズワイは深海の低水温域に生息する。そのため、ホタルイカは 4~6 月、ベニズワイは厳冬期の 1、2 月を除いた月に漁獲されると、外気温の影響で鮮度劣化が進んでしまう。

そこで、平成 29 年度に整備された製氷施設から供給されるシャーベット氷のより良い活用方法を試行し、ホタルイカやベニズワイの鮮度管理に適した利用方法を確立・普及することで、品質向上による単価の向上を目指す。

##### ③ 冷凍保管施設の整備による出荷調整

シロエビやホタルイカは鮮度落ちが早く、大量に漁獲されたときは、値崩れする傾向にある。

そこで、新湊漁協は、冷凍保存施設を令和 5 年度に整備し、漁業者はシロエビやホタルイカが大量に漁獲された際に、冷凍保存施設を活用して高鮮度のまま保存し、水揚げの少ないときに販売することで単価を底支えし、漁期を通しての魚価を向上させる。

##### ④ 加工施設の整備による漁業者グループの 6 次産業化

シロエビのむき身は美しい見た目と濃厚な甘みで高級食材として人気があり、高値で取引されている。

そこで、令和 5 年度に新湊漁港内に加工施設を整備し、漁業者グループはこれを利用し

てシロエビ加工品を生産し販売する。併せて、同加工施設においてエコラベルの CoC 認証を取得し、大手販売店からの需要を増加させることで、シロエビ漁業者の所得を向上させる。さらに、刺網や定置網で漁獲された沿岸の高級魚についても、血抜きや神経締め等の 1 次処理を可能とすることで、シャーベット氷の活用と併せてより高品質な魚の供給体制を整える。

#### ⑤新湊産ベニズワイガニのさらなるブランド化推進による単価の向上

ベニズワイガニは、県が平成 28 年度に「高志の紅ガニ」としてブランド化した。それに併せて、新湊の漁業者が「富山のさかな」おもてなしフェア」を始めとする県主催のイベントや、市が主催の「カニかに海鮮白えびまつり」や「きときと射水大漁まつり」等において積極的に PR を行ったことで、新湊産ベニズワイガニの単価は向上した。

そこで、これまでの PR 活動を継続しつつ、新湊産のベニズワイガニは、漁場が近く、昼のセリ後に速やかに加工、提供されるため、高鮮度で美味しいという強みを県内外に広く PR する。併せて、地元でベニズワイガニを扱う飲食店の紹介等も実施することで、第 2 期プランにおいても単価向上効果を持続させる。

#### ⑥地域交流・啓発普及

市内 15 校の小学校の 6 年生にカニ一人一杯給食や、高校生、大学生を対象に魚のさばき方教室を継続して実施することで魚食文化の継承及び普及を図るとともに、小学校においてはさらに訪問授業を行うことで地元消費の拡大を図る。また、「新湊カニかに海鮮白えびまつり」といった大規模 PR イベントやセリ見学、マスメディア等を効果的に利用し、広報活動の充実を図る。

#### ⑦庄川ブランドの発信

県内で行われるイベントに参加し、庄川で育ったアユ等の美味しさを PR することで、内水面漁業の魅力を広く認知してもらう。

## (2) 環境保全・資源の維持、増大

### ①サケ増殖施設の整備

現在、サケの稚魚放流を実施している庄川漁連のサケ増殖場は、昭和 7 年度に整備されたもので、施設の老朽化による水槽のひび割れや水漏れがあり、生産効率が低下している。また、平成 7 年度に整備された築についても、老朽化によりサケの採捕効率が悪い。今後も種苗放流を継続し、庄川やその沿海におけるサケ資源やサケ漁業の文化を守っていくためには、遡上量の減少した中でもより効率的にサケ親魚を採捕し、種卵を確保できる増殖施設が必要である。そこで、第 2 期浜プランにおいて、サケ増殖場を生産効率の高い施設に整備し、より健康な種苗を放流することで、現行の回収率を改善させ、庄川水系のサケ資源の保護に繋げる。

### ②いみずサクラマスの上陸養殖

漁業者は、市でブランド化を進めている「いみずサクラマス」の上陸養殖の導入を検討

する。

③種苗放流による資源の維持・増大

新湊漁協は、クロダイやヒラメ、アワビなど種苗放流を行い資源の維持及び増大を図る。

④藻場の再生

漁業者は、富山湾を愛する会等のNPO法人が実施する藻場の維持管理や再生活動等に協力し、資源の維持及び増大を図る。

⑤海底清掃、岩盤清掃

漁業者は、海底清掃や海岸清掃による漁場の環境保全に取り組む。

⑥庄川流域等での植樹活動

漁業者は、豊かな海づくりに向け植樹活動を庄川流域等にて行う。

⑦資源管理

かごなわ漁業者は、資源の持続的な利用のため、水曜日の自主休漁を継続する。

小型底曳漁業者は、漁業者同士の過度な競争を抑え、十分な水揚げを効率よく確保し、資源保護及び再生産を促すために、水揚げ金額を全員で頭割りする「プール制」や、2チームに分かれて日ごとに操業する「輪番制」を引き続き実施する。

また、富山県農林水産総合技術センター水産研究所等の調査結果を参考にしながら、漁獲方法や漁獲場所等について改善していく。

### (3) 人材の確保・育成

①漁業者の確保

(公社)富山県農林水産公社が主催する就業相談会等へ積極的に情報提供を行い、漁業の担い手確保に努めるとともに、漁業研修及び居住に係る支援や補助を活用することで他漁港との差別化を図り、新規担い手の確保に努める。

②漁業者の育成

新湊漁協青年部は活〆や網掛け等の漁業技術の向上を図るために定期的に講師を招くなど、講習会を積極的に開催する。

## 2 漁業コスト削減のための取組

### (1) スマート水産業の導入

①入網情報の確認

新湊漁協は、ユビキタス魚探による入網情報の遠隔確認の方法等について、漁業者らと勉強会等を開催し、漁業コストの削減について検討する。

②効率的な出漁

漁業者は、潮流情報を積極的に活用することで、効率的な出漁に努め、人件費や氷代の削減を図る。

③効率的な漁業を実施するための機器導入

漁業者は、それぞれの漁法に合った魚群探知機等の機器を導入し、効率的な漁業によるコスト削減に努める。

## (2) 燃油代の節減

### ①省エネ航行による削減

漁業者は、定期的な船底清掃、係留中の機関の停止、積載量の減量、専用アプリの活用による省エネ航行の確認等を徹底することで、燃油代を節減する。

### ②スマート水産業の導入

漁業者は、出漁前に潮流情報や入網情報を収集し、効率的な出漁により燃油代を節減する。

### ③省エネエンジンの導入

漁業者は、船内機及び船外機の更新時に省エネ機器を導入することで燃油代の削減を図る。

### ④漁業経営セーフティーネット構築事業への加入促進

新湊漁協は、漁業者に対し漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進することで燃油高騰に備える。

## (3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

海面漁業では、富山県資源管理指針に基づき作成された資源管理計画を徹底するとともに、漁法ごとに自主的な禁漁区や期間、休漁日を設定し資源保護に努めている。

## (4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和2年度） 以下に掲げる取組により所得を基準年比4.9%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<h3>(1) 魚価向上に向けての取組</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>①シロエビのエコラベルの取得による販路拡大 シロエビ漁業者はエコラベル認証取得のための予備審査を申請し、エコラベル取得の検討を進める。</li><li>②シャーベット氷の活用による鮮度管理 漁業者と新湊漁協、仲買人は、シャーベット氷の有効活用について協議し、高鮮度保持による付加価値の向上策について検証する。</li><li>③冷凍保管施設の整備による出荷調整 新湊漁協は、冷凍保管施設の整備の必要性について漁業者や市、県と協議し検討する。</li><li>④加工施設の整備による漁業者グループによる6次産業化</li></ul>
--------------	--

新湊漁協は、漁業者に対し、漁獲（生産）だけでなく、加工や販売についても取り組む（6次産業化）ことによる、所得の向上や漁業経営の安定化について提案し、理解を求める。併せて、漁業者と新湊漁協は、エコラベル認証水産物の販売に向けた加工・冷凍保管施設の整備に向け、その仕様について協議する。

#### ⑤新湊産ベニズワイガニのさらなるブランド化推進による単価の向上

新湊漁協、ベニズワイ漁業者、県、市は、ブランド普及のために協力し、「カニかに海鮮白えびまつり」や「きときと射水大漁まつり」等での直接販売によるPR活動に加え、ベニズワイガニの美味しい食べ方（身のむきかた）や新鮮なまま提供できる地元飲食店について、HPやSNSを通じて積極的に情報発信を行う。

併せて、漁業者や新湊漁協は、発信力の強い著名人にベニズワイガニを食べてもらえるよう市や県の広報と協力し、その美味しさを全国に広くPRする。

#### ⑥地域交流・啓発普及

漁業者は、地元消費拡大に伴う魚価向上を目指し、市内全小学6年生に対するカニ一人一杯給食や高校生、大学生を対象に魚のさばき方教室を継続して実施することで魚食文化の継承及び普及を図る。加えて、「新湊カニかに海鮮白えびまつり」の取り組みにより、ベニズワイガニやシロエビのさらなる知名度の向上を図る。併せて、姉妹漁港の由比港漁港（静岡県静岡市）と連携し、シロエビを中心に継続的にPR活動を行う。

#### ⑦庄川ブランドの発信

漁業者は、県内で行われるイベントに参加し、庄川で育ったアユ等を提供することで、庄川のアユの美味しさをPRする。

## （2）環境保全・資源の維持、増大

### ①サケ増殖施設の整備

庄川漁連は、庄川沿岸のサケ資源の回復のため、昭和7年に整備されたサケ増殖施設について、施設やサケ資源の現状を把握し、新たな増殖施設の整備内容について検討する。

### ②いみずサクラマスの上陸養殖

漁業者は、市でブランド化を進めている「いみずサクラマス」の上陸養殖の導入を検討する。

### ③種苗放流による資源の維持・増大

新湊漁協は、クロダイやヒラメ、アワビなどの種苗放流を行い、資源の維持及び増大を図る。



	<p>④藻場の再生</p> <p>漁業者は、富山湾を愛する会等のNPO法人が実施する藻場の維持管理や再生活動等に協力し、資源の維持及び増大を図る。</p> <p>⑤海底清掃、岩盤清掃</p> <p>漁業者は、海底清掃や海岸清掃による漁場の環境保全に取り組む。</p> <p>⑥庄川流域等での植樹活動</p> <p>漁業者は、豊かな海づくりに向けた植樹活動を庄川流域等にて行う。</p> <p>⑦資源管理</p> <p>かごなわ漁業者は、資源確保のための水曜日の自主休漁を継続する。</p> <p>また、小型底曳漁業者は、漁業者同士の過度な競争を抑え、十分な水揚げを効率よく確保し、資源保護及び再生産を促すために、水揚げ金額を全員で頭割りする「プール制」や、2チームに分かれて日ごとに操業する「輪番制」を引き続き実施する。</p> <p>また、富山県農林水産総合技術センター水産研究所等の調査結果を参考にしながら、漁獲方法や漁獲場所等について改善していく。</p> <p><b>(3) 人材確保・育成</b></p> <p>①漁業者の確保</p> <p>新湊漁協は、(公社)富山県農林水産公社主催の各就業相談会やフェアへ情報提供を行い、担い手の確保に努める。市は、漁業研修費及び居住費の支援を行い他漁港との差別化を図る。</p> <p>②漁業者の育成</p> <p>新湊漁協青年部は、定期的に講師を招き、活〆や網掛け等の講習会を開催して漁業技術の向上を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>(1) スマート水産業の導入</b></p> <p>①入網情報の確認</p> <p>新湊漁協は、既にユビキタス魚探による入網情報の遠隔確認を実施している漁業者と協力して、その他の漁業者らと勉強会等を開催し、漁業コストの削減方法について検討する。</p> <p>②効率的な出漁</p> <p>漁業者は、潮流情報を積極的に活用することで、効率的な出漁に努め、人件費や氷代の削減を図る。</p> <p>③効率的な漁業を実施するための機器導入</p> <p>漁業者は、それぞれの漁法に合った魚群探知機等の機器導入について検討する。</p>

	<p><b>(2) 燃油代の節減</b></p> <p>①省エネ航行による削減  漁業者は、定期的な船底清掃、係留中の機関の停止、積載量の減量、専用アプリの活用による省エネ航行の確認等を徹底することで、基準年に比べ2%の燃油代を節減する。</p> <p>②スマート水産業の導入  漁業者は、スマート漁業の導入について理解を深め、効率的な出漁による燃費の節減について検討する。</p> <p>③省エネエンジンの導入  漁業者は、船内機及び船外機の更新時に省エネ機器を導入することで燃油代の削減を図る。</p> <p>④漁業経営セーフティネット構築事業への加入促進  新湊漁協は、漁業者に対し漁業経営セーフティネット構築事業への加入を促進することで燃油高騰に備える。</p>
活用する支援措置等	漁業構造改革総合対策事業（国） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国） 浜の活力再生・成長促進交付金（国） 養殖業成長産業化推進事業（国） スマート水産業推進事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 富山県地域団体ブランド発信応援事業（県） 沿岸漁業振興助成事業（県） 射水市ブランド商品開発等支援事業（市） 種苗放流補助事業（市） 就業研修者支援事業（市） 就業者居住支援事業（市） 浜の活力再生・成長促進交付金（国） 水産業強化対策整備交付金 内水面水産資源被害対策事業（国） さけ・ます放流体制緊急転換事業（国） さけ・ます抜本対策事業(国) 富山のさかなブランド化支援事業（県）

2年目（令和3年度） 以下に掲げる取組により所得を基準年比4.9%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>(1) 魚価向上に向けての取組</b></p> <p>①シロエビのエコラベルの取得による販路拡大 シロエビ漁業者はエコラベル認証を申請し、取得する。</p> <p>②シャーベット氷の活用による鮮度管理 漁業者と新湊漁協、仲買人は、引き続きシャーベット氷の有効活用について協議しながら、水揚げから出荷までの各段階における高鮮度保持方法を確立させる。</p> <p>③冷凍保管施設の整備による出荷調整 新湊漁協は、冷凍保管施設の整備について、漁業者や市、県と協議し、シロエビとホタルイカの出荷調整に必要な規模や費用について検討する。</p> <p>④加工施設の整備による漁業者グループによる6次産業化 新湊漁協と漁業者は、漁港内に加工作業の試行施設を整備・運用を開始し、6次産業化に向けた加工施設整備に必要な情報を収集する。</p> <p>⑤新湊産ベニズワイガニのさらなるブランド化推進による単価の向上 新湊漁協及び県、市はベニズワイガニのPR活動を継続する。</p> <p>⑥地域交流・啓発普及 漁業者は、魚食文化の継承・普及の活動、PR活動を継続する。</p> <p>⑦庄川ブランドの発信 漁業者は、庄川のアユのPRの取り組みを継続する。</p> <p><b>(2) 環境保全・資源の維持、増大</b></p> <p>①サケ増殖施設の整備 庄川漁連は、サケ増殖施設について、令和4年度の整備実施に向けて関係機関と調整を行う。</p> <p>②いみずサクラマスの上陸養殖 漁業者は、市でブランド化を進めている「いみずサクラマス」の上陸養殖について、生け簀の整備や成育技術を学ぶ等、実施に向けた準備を進める。</p> <p>③種苗放流による資源の維持・増大 新湊漁協は、種苗放流の取り組みを継続する。</p> <p>④藻場の再生 漁業者は、富山湾を愛する会等のNPO法人が実施する藻場再生活動への協力を継続する。</p> <p>⑤海底清掃、岩盤清掃 漁業者は、海底清掃等の環境保全の取り組みを継続する。</p>
---------------------	---

	<p>⑥庄川流域等での植樹活動 漁業者は、庄川流域等での植樹活動を継続する。</p> <p>⑦資源管理 かごなわ漁業は水曜日の自主休漁を、小型底曳漁業者は輪番制を継続する。</p> <p><b>(3) 人材確保・育成</b></p> <p>①漁業者の確保 新湊漁協は、就業相談会やフェアへの情報提供等の取り組みを継続する。</p> <p>②漁業者の育成 新湊漁協青年部は、活締め等の講習会開催による漁業技術向上の取り組みを継続する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>(1) スマート水産業の導入</b></p> <p>①入網情報の確認 新湊漁協は、既にユビキタス魚探による入網情報の遠隔確認を実施している漁業者と協力して、その他の漁業者らと勉強会等を開催し、漁業コストの削減について検討する。</p> <p>②効率的な出漁 漁業者は、潮流情報を積極的に活用することで、効率的な出漁に努め、人件費や氷代の削減を図る。</p> <p>③効率的な漁業を実施するための機器導入 漁業者は、それぞれの漁法に合った魚群探知機等の機器導入について検討する。</p> <p><b>(2) 燃油代の節減</b></p> <p>①省エネ航行による削減 漁業者は、定期的な船底清掃、係留中の機関の停止、積載量の減量、専用アプリの活用による省エネ航行の確認等を徹底することで、基準年に比べ2%の燃油代を節減する。</p> <p>②スマート水産業の導入 漁業者は、スマート漁業の導入について理解を深め、効率的な出漁による燃費の節減について検討する。</p> <p>③省エネエンジンの導入 漁業者は、船内機及び船外機の更新時に省エネ機器を導入することで</p>

	<p>燃油代の削減を図る。</p> <p>④漁業経営セーフティーネット構築事業への加入促進 新湊漁協は、漁業者に対し漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進することで燃油高騰に備える。</p>
活用する支援措置等	<p>漁業構造改革総合対策事業（国）</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</p> <p>浜の活力再生・成長促進交付金（国）</p> <p>養殖業成長産業化推進事業（国）</p> <p>スマート水産業推進事業（国）</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業（国）</p> <p>漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</p> <p>富山県地域団体ブランド発信応援事業（県）</p> <p>沿岸漁業振興助成事業（県）</p> <p>射水市ブランド商品開発等支援事業（市）</p> <p>種苗放流補助事業（市）</p> <p>就業研修者支援事業（市）</p> <p>就業者居住支援事業（市）</p> <p>浜の活力再生・成長促進交付金（国） 水産業強化対策整備交付金</p> <p>内水面水産資源被害対策事業（国）</p> <p>さけ・ます放流体制緊急転換事業（国）</p> <p>さけ・ます抜本対策事業（国）</p> <p>富山のさかなブランド化支援事業（県）</p>

3年目（令和4年度） 以下に掲げる取組により所得を基準年比5.4%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p><b>（1）魚価向上に向けての取組</b></p> <p>①シロエビのエコラベルの取得による販路拡大 シロエビ漁業者は、しろえび倶楽部によるPR活動等を通じて、エコラベル表示のシロエビについて広く周知する。</p> <p>②シャーベット氷の活用による鮮度管理 漁業者と新湊漁協、仲買人は、前年度に確立した鮮度保持方法を実践し、ホタルイカやベニズワイを始めとした漁獲物の品質を向上させる。</p> <p>③冷凍保管施設の整備による出荷調整 新湊漁協は、冷凍保管施設の整備に向けて仕様を概ね固め、市や県に予算措置を依頼する。</p> <p>④加工施設の整備による漁業者グループによる6次産業化 新湊漁協と漁業者は、加工作業の実証を踏まえ本格的な加工施設の整</p>
--------------	---

備に向けて準備を進める。

⑤新湊産ベニズワイガニのさらなるブランド化推進による単価の向上  
新湊漁協及び県、市はベニズワイガニのPR活動を継続する。

⑥地域交流・啓発普及

漁業者は、魚食文化の継承・普及やPR活動を継続する。

⑦庄川ブランドの発信

漁業者は、庄川のアユのPR活動を継続する。

## (2) 環境保全・資源の維持、増大

①サケ増殖施設の整備

庄川漁連は、サケ増殖施設について、整備を実施する。

②いみずサクラマスの上陸養殖

漁業者は、市でブランド化を進めている「いみずサクラマス」の上陸養殖を実施し、成魚への育成を行う。

③種苗放流による資源の維持・増大

新湊漁協は、種苗放流の取り組みを継続する。

④藻場の再生

漁業者は、富山湾を愛する会等のNPO法人が実施する藻場再生活動への協力を継続する。

⑤海底清掃、岩盤清掃

漁業者は、海底清掃等の環境保全の取り組みを継続する。

⑥庄川流域等での植樹活動

漁業者は、庄川流域等での植樹活動を継続する。

⑦資源管理

かごなわ漁業は水曜日の自主休漁を、小型底曳漁業者は輪番制を継続する。

## (3) 人材確保・育成

①漁業者の確保

新湊漁協は、就業相談会やフェアへの情報提供等の取り組みを継続する。

②漁業者の育成

新湊漁協青年部は、活締め等の講習会開催による漁業技術向上の取り組みを継続する。

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>(1) スマート水産業の導入</b></p> <p>①入網情報の確認  漁業者は、ユビキタス魚群による入網情報を活かし、検討した削減方法を実施することで労作業の効率化を図る。</p> <p>②効率的な出漁  漁業者は、潮流情報を積極的に活用することで、効率的な出漁に努め、人件費や氷代の削減を図る。</p> <p>③効率的な漁業を実施するための機器導入  漁業者はユビキタス魚探の導入を促進し、入網状況の遠隔確認による効率的な出漁を実施することで、人件費や氷代の削減を図る。</p> <p><b>(2) 燃油代の節減</b></p> <p>①省エネ航行による削減  漁業者は、船底清掃や省エネ航行等、これまでの燃油代節減の取組みを継続する。</p> <p>②スマート水産業の導入  漁業者は、スマート漁業の導入により潮流情報を把握し、定置網の網起こしが実施できないと予想される場合には、無駄な出漁を控えるようにすることで、基準年に比べ1%燃費代を節減する。</p> <p>③省エネエンジンの導入  漁業者は、機関換装時に省エネ機器を導入し燃油代の削減を図る。</p> <p>④漁業経営セーフティーネット構築事業への加入促進  新湊漁協は、漁業者に対する漁業経営セーフティーネット構築事業への加入促進を継続する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業構造改革総合対策事業（国）  水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）  浜の活力再生・成長促進交付金（国）  養殖業成長産業化推進事業（国）  スマート水産業推進事業（国）  水産多面的機能発揮対策事業（国）  漁業経営セーフティーネット構築事業（国）  富山県地域団体ブランド発信応援事業（県）  沿岸漁業振興助成事業（県）  射水市ブランド商品開発等支援事業（市）  種苗放流補助事業（市）  就業研修者支援事業（市）</p>

	<p>就業者居住支援事業（市）</p> <p>浜の活力再生・成長促進交付金（国） 水産業強化対策整備交付金</p> <p>内水面水産資源被害対策事業（国）</p> <p>さけ・ます放流体制緊急転換事業（国）</p> <p>さけ・ます抜本対策事業（国）</p> <p>富山のさかなブランド化支援事業（県）</p>
--	---

4年目（令和5年度） 以下に掲げる取組により所得を基準年比5.9%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>（1）魚価向上に向けての取組</b></p> <p>①シロエビのエコラベルの取得による販路拡大 シロエビ漁業者は、しろえび倶楽部によるPR活動を継続し、エコラベルの認知度を高めて、付加価値を向上させる。</p> <p>②シャーベット氷の活用による鮮度管理 漁業者と新湊漁協、仲買人は、前年度に引き続き、確立した鮮度保持方法の実践によりホタルイカやベニズワイガニ等の鮮度を向上させる。</p> <p>③冷凍保管施設の整備による出荷調整 新湊漁協は、冷凍保管施設の整備を実施する。</p> <p>④加工施設の整備による漁業者グループによる6次産業化 新湊漁協は冷凍・加工施設の整備を実施し、併せてエコラベルのCoC認証を取得する。</p> <p>⑤新湊産ベニズワイガニのさらなるブランド化推進による単価の向上 新湊漁協及び県、市はベニズワイガニのPR活動を継続する。</p> <p>⑥地域交流・啓発普及 漁業者は、魚食文化の継承・普及活動やPR活動を継続する。</p> <p>⑦庄川ブランドの発信 漁業者は、庄川のアユのPR活動を継続する。</p> <p><b>（2）環境保全・資源の維持、増大</b></p> <p>①サケ増殖施設の整備 庄川漁連は、新たに整備したサケ増殖施設を活用しながら、新施設の運用に合った効率的な種苗生産方法について試行する。</p> <p>②いみずサクラマスの上陸養殖 漁業者は、海上養殖で適切なサイズまで育成した「いみずサクラマス」を水揚げし、セリで販売する。また、給餌等の工夫によるサイズアップを目指し、海上養殖を継続する。</p> <p>③種苗放流による資源の維持・増大</p>
---------------------	--



	<p>新湊漁協は、種苗放流の取り組みを継続する。</p> <p>④藻場の再生 漁業者は、富山湾を愛する会等のNPO法人が実施する藻場再生活動への協力を継続する。</p> <p>⑤海底清掃、岩盤清掃 漁業者は、海底清掃等の環境保全の取り組みを継続する。</p> <p>⑥庄川流域等での植樹活動 漁業者は、庄川流域等での植樹活動を継続する。</p> <p>⑦資源管理 かごなわ漁業は水曜日の自主休漁を、小型底曳漁業者は輪番制を継続する。</p> <p><b>(3) 人材確保・育成</b></p> <p>①漁業者の確保 新湊漁協は、就業相談会やフェアへの情報提供等の取り組みを継続する。</p> <p>②漁業者の育成 新湊漁協青年部は、活締め等の講習会開催による漁業技術向上の取り組みを継続する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>(1) スマート水産業の導入</b></p> <p>①入網情報の確認 漁業者は、ユビキタス魚群による入網情報を活かし、検討した削減方法を実施することで労作業の効率化を図る。</p> <p>②効率的な出漁 漁業者は、潮流情報の活用による人件費や氷代の削減に継続して取り組む。</p> <p>③効率的な漁業を実施するための機器導入 漁業者は、入網状況の遠隔確認を活用し、人件費や氷代の削減に継続して取り組む。</p> <p><b>(2) 燃油代の節減</b></p> <p>①省エネ航行による削減 漁業者は、船底清掃や省エネ航行等、これまでの取り組みを継続する。</p> <p>②スマート水産業の導入 漁業者は、潮流情報を活用し、より効果的な出漁を行うことで、基準年に比べ3%燃費代を節減する。</p>

	<p>③省エネエンジンの導入 漁業者は、省エネエンジンの導入による燃油代の削減に継続して取り組む。</p> <p>④漁業経営セーフティネット構築事業への加入促進 新湊漁協は、漁業者に対する漁業経営セーフティネット構築事業への加入促進を継続する。</p>
活用する支援措置等	<p>漁業構造改革総合対策事業（国）</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</p> <p>浜の活力再生・成長促進交付金（国）</p> <p>養殖業成長産業化推進事業（国）</p> <p>スマート水産業推進事業（国）</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業（国）</p> <p>漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p> <p>富山県地域団体ブランド発信応援事業（県）</p> <p>沿岸漁業振興助成事業（県）</p> <p>射水市ブランド商品開発等支援事業（市）</p> <p>種苗放流補助事業（市）</p> <p>就業研修者支援事業（市）</p> <p>就業者居住支援事業（市）</p> <p>浜の活力再生・成長促進交付金（国） 水産業強化対策整備交付金</p> <p>内水面水産資源被害対策事業（国）</p> <p>さけ・ます放流体制緊急転換事業（国）</p> <p>さけ・ます抜本対策事業（国）</p> <p>富山のさかなブランド化支援事業（県）</p>

5年目（令和6年度） 以下に掲げる取組により所得を基準年比 13.2%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p><b>（1）魚価向上に向けての取組</b></p> <p>①シロエビのエコラベルの取得による販路拡大 シロエビ漁業者は、しろえび倶楽部によるPR活動を継続し、エコラベルの認知度を高めることで、付加価値を向上させる。</p> <p>②シャーベット氷の活用による鮮度管理 漁業者と新湊漁協、仲買人は、前年度に引き続き、確立した鮮度保持方法の実践によりホタルイカやベニズワイガニ等の鮮度を向上させる。</p> <p>③冷凍保管施設の整備による出荷調整 漁業者は、シロエビ及びホタルイカについて、冷凍保管施設を活用して出荷調整し、水揚げの少ない時期に販売することで魚価を向上させ</p>
--------------	--

る。

④加工施設の整備による漁業者グループによる6次産業化

新湊漁協とシロエビ漁業者は、整備された冷凍・加工施設を活用し、シロエビの加工品を販売する。

併せて、刺網や定置網漁業者は、沿岸の高級魚について、加工施設で血抜きや神経締め等の一次処理を行い、更なる高品質化に取り組む。

新湊漁協は、本取り組みをモデルケースとして、他の漁業者に対しても6次産業化の導入を勧める。

⑤新湊産ベニズワイガニのさらなるブランド化推進による単価の向上

新湊漁協及び県、市はベニズワイガニのPR活動を継続する。

⑥地域交流・啓発普及

漁業者は、魚食文化の継承・普及活動やPR活動を継続する。

⑦庄川ブランドの発信

漁業者は、庄川のアユのPR活動を継続する。

**(2) 環境保全・資源の維持、増大**

①サケ増殖施設の整備

新たに整備したサケ増殖施設について、前年度に試行した結果をフィードバックして、より効率的な種苗生産方法に切り替える。

②いみずサクラマスの上陸養殖

漁業者は、海上養殖で適切なサイズまで育成した「いみずサクラマス」を水揚げし、セリで販売する。また、給餌等を工夫することでさらなるサイズアップを目指して海上養殖を継続する。

③種苗放流による資源の維持・増大

新湊漁協は、種苗放流の取り組みを継続する。

④藻場の再生

漁業者は、富山湾を愛する会等のNPO法人が実施する藻場再生活動への協力を継続する。

⑤海底清掃、岩盤清掃

漁業者は、海底清掃等の環境保全の取り組みを継続する。

⑥庄川流域等での植樹活動

漁業者は、庄川流域等での植樹活動を継続する。

⑦資源管理

かごなわ漁業は水曜日の自主休漁を、小型底曳漁業者は輪番制を継続する。

	<p><b>(3) 人材確保・育成</b></p> <p>①漁業者の確保 新湊漁協は、就業相談会やフェアへの情報提供等の取り組みを継続する。</p> <p>②漁業者の育成 新湊漁協青年部は、活締め等の講習会開催による漁業技術向上の取り組みを継続する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>(1) スマート水産業の導入</b></p> <p>①入網情報の確認 漁業者は、ユビキタス魚群による入網情報を活かし、検討した削減方法を実施することで労作業の効率化を図る。</p> <p>②効率的な出漁 漁業者は、潮流情報の活用による人件費や氷代の削減に継続して取り組む。</p> <p>③効率的な漁業を実施するための機器導入 漁業者は、入網状況の遠隔確認を活用し、人件費や氷代の削減に継続して取り組む。</p> <p><b>(2) 燃油代の節減</b></p> <p>①省エネ航行による削減 漁業者は、船底清掃や省エネ航行等、これまでの取り組みを継続する。</p> <p>②スマート水産業の導入 漁業者は、潮流情報を活用し、より効果的な出漁を行うことで、基準年に比べ3%燃費代を節減する。</p> <p>③省エネエンジンの導入 漁業者は、省エネエンジンの導入による燃油代の削減に継続して取り組む。</p> <p>④漁業経営セーフティネット構築事業への加入促進 新湊漁協は、漁業者に対する漁業経営セーフティネット構築事業への加入促進を継続する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業構造改革総合対策事業（国） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国） 浜の活力再生・成長促進交付金（国） 養殖業成長産業化推進事業（国） スマート水産業推進事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国）</p>

	漁業経営セーフティネット構築事業（国） 富山県地域団体ブランド発信応援事業（県） 沿岸漁業振興助成事業（県） 射水市ブランド商品開発等支援事業（市） 種苗放流補助事業（市） 就業研修者支援事業（市） 就業者居住支援事業（市） 浜の活力再生・成長促進交付金（国） 水産業強化対策整備交付金 内水面水産資源被害対策事業（国） さけ・ます放流体制緊急転換事業（国） さけ・ます抜本対策事業（国） 富山のさかなブランド化支援事業（県）
--	--

(5) 関係機関との連携

<p>海面漁業については、富山県及び射水市並びに新湊漁協が緊密に連携しながら、国、県及び市並びに民間事業者（富山県信用漁業協同組合連合会、富山県漁業共済組合）などの各種支援・補助制度を活用する。また、富山県漁業協同組合連合会等の関係機関より随時アドバイスを受けながら北陸新幹線開業による観光客の増加を生かし「新湊のさかな」のPRを進め、漁業者の所得向上につなげる。さらに、地域団体・学校等とも連携することで、漁村の活性化を図る。</p> <p>内水面漁業については、富山県及び射水市並びに庄川漁連が緊密に連携しながら、国、県及び市並びに民間事業者（富山県信用漁業協同組合連合会、富山県漁業共済組合、富山県内水面漁業協同組合連合会、富山県鮭鱒部会）などの各種支援・補助制度を活用する。</p>
---

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 26～30 年度 5 中 3 平均： 一人あたり漁業所得 円
	目標年	令和 6 年度：一人あたり漁業所得 円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

水産物の単価向上	基準年	平成 26～30 年度の 5 中 3 平均 シロエビ 2,436 円/kg ホタルイカ 1,216 円/kg ベニズワイガニ 1,484 円/kg
	目標年	令和 6 年度 シロエビ 2,511 円/kg ホタルイカ 1,245 円/kg ベニズワイガニ 1,546 円/kg
シロエビ 6 次産業化（むき身の年間販売額）	基準年	平成元年度 0 円
	目標年	令和 6 年度 61,200 千円

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>平成 26～30 年度のうち、水揚額の最高額と最低額を除いた 5 中 3 平均の年度において、平均単価を算出した。目標単価は各取組効果を数値化した。</p> <p>(別紙 所得目標計算総括表のとおり)</p>
---

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業構造改革総合対策事業	漁業収入向上に係る取り組みに活用する。
水産業成長産業化沿岸地域創出事業	漁業収入向上に係る取り組みに活用する。
浜の活力再生・成長促進交付金	漁業収入向上に係る取り組みに活用する。
養殖業成長産業化推進事業	海上養殖に係る取り組みに活用する。
スマート水産業推進事業	スマート水産業導入及び実施に係る取り組みに活用する。
水産多面的機能発揮対策事業	環境・生態系の維持回復に係る取り組みに活用する。

漁業経営セーフティネット構築事業	燃料の急騰対策の取り組みに活用する。
富山県地域団体ブランド発信応援事業	水産物のブランド化に係る取り組みに活用する。
沿岸漁業振興助成事業 (県・漁獲物付加価値向上設備補助)	沿岸漁業振興助成事業に係る取り組みに活用する。
射水市ブランド商品開発等支援事業	水産物のブランド化に係る取り組みに活用する。
種苗放流補助事業(市)	水産資源回復に係る取り組みに活用する。
就業研修者支援事業(市) 就業者居住支援事業(市)	新規就業者確保に係る取り組みに活用する。
浜の活力再生・成長促進交付金(国) 水産業強化対策整備交付金	サケを捕獲し採卵するため、ヤナを新設設置
内水面水産資源被害対策事業(国)	カワウ、外来魚等駆除対策
さけ・ます放流体制緊急転換事業(国)	さけ資源の増大のために、さけ人工ふ化事業を実施
さけ・ます抜本対策事業(国)	さけ資源の増大のために、発眼卵の放流を実施
富山のさかなブランド化支援事業(県)	庄川アユのブランド化推進